

## 高尾の親子運動会

三年 岸本 結生

高尾小学校では、一学期に親子運動会をします。今年の運動会は、地いきの人が子どもから大人まで七十人くらいあつまりました。一番心のこつたのは、ファッションショーです。なぜなら、ほかの人のファッションショーを見るのがおもしろかったからです。お兄ちゃんペンギンにかそうしました。いつもえい語を覚えてくれるローレン先生は、ま女のたつきゅうびんのキキになりました。カメムシになったのは、校長先生でした。わたしは、けいさつかんになって、どろぼう役の校長先生をつかまえました。わたしと真央ちゃんのお父さんお母さんはサザエさん一家になっていました。サザエさんのかみがたが本物みたいでした。わたしのお母さんは波平さんになって、げたをはいてカツオくんとかヤッチボールをしていました。タマもいました。お客さんもわらっていたり、びっくりしたような顔をしていました。とてもおもしろかったので、わたしは、これがずっとつづけばいいなあと思いました。



## 高尾っ子祭り

五年 渡部 真央

一年生から五年生までやってきた高尾っ子祭りも、いよいよ最後です。私は、高尾っ子祭りの中で、木山バンドがいちばん楽しみです。なぜなら地域の人たちが、はくしゅをして、笑顔になってくれるからです。今年は、親子でドラムをします。私が「home」、お父ちゃんが「星影のエル」という曲をします。お父ちゃんは、毎日、夜になると小屋の二階で練習しています。私は、学校のドラムで休み時間に練習をしています。本番で二人とも成功できるようにがんばっていききたいです。



## 笑ってもらうのは楽しいなあ

六年 岸本 大輝

「ぐわっはっは……」と豪快に笑うおばちゃん。手をたたき、肩を震わせながら笑うおじちゃん。今日は落語もお客さんも花丸だな。高尾小学校にここに寄席の様子です。

お客さんに笑ってもらうのは簡単ではありません。人によって笑いのツボが違うからです。なので多くの人に笑ってもらうために、ネタの研究をします。(この登場人物は何歳だろう)とか(この子はどんな性格かな)と考えると、とてもワクワクします。研究してから二日に一回、二十分くらい練習します。でも、そううまくはいきません。がんばっても高座では言葉が詰まったり、セリフが早くなったりしてしまいます。そうなればまた練習し直します。

今年はおぼくがリーダーなので、自分の番が来るまではみんなの落語を聞いて、日に日に上手になっているなあかと思っています。自分の出番はともわくわくです。なぜなら、お客さんに日々の成果を見てもらえるからです。もうすぐ閉校だけど、最後まで練習をつくし、最後の最後まで笑ってもらおうと思います。



## 最後の高尾っ子まつり

三年 岸本 結生

わたしは、まちにまった高尾っ子祭りをしました。私は、とても緊張していましたが、よく落語のまくらがいえるかしんぱいでした。わたしがよく楽しかったことは、お店です。そうぞうの三倍は来てくれて、いそがしかったけど、うれしかったです。さいしよは、知っている人がきてくれました。たまに見るだけの人もいました。わたしは、「やりますか。」ときくと、「いいわ。つりざおも作るんだ。」といっていました。わたしは、つりざおももってかえっていい人ももってかえってもらって、もってかえらなくてもいいという人は、おいてかえってもらって、つりざおを作る人は作ってもらって、作らない人は、おいてかえってもらったつりざおを使ってもらった方がよかったです。わたしは、高尾っ子祭りをまだしたいなあと思いました。でも、さいごの高尾っ子祭りをせいいっぱい楽しめたのでよかったです。そのあと、まくらも落語ももうまくいって、お客さんにいっぱいわらってもらってよかったです。



## 楽しかった最後の高尾っ子まつり

五年 渡部 真央

十一月十七日に、最後の高尾っ子まつりがありました。わたしは、「もう高尾っ子まつり？」と思って、やっぱり早いなあと思いました。でもその時少しドキドキしていました。なぜなら、いここが来るからです。私は、いそがしかったけど、楽しかったので、一位から三位まで発表します。第三位は、お店です。たくさんの方が来てくださって、話すだけでも楽しかったです。第二位は、木山バンドです。ドラムをいっぱい練習してきたからです。第一位は、木山さんのコンサートです。「home」が好きで、きれいな声でした。どれもいい声でよかったです。いここにも寄席と木山バンドが楽しかったと言ってもらえて、最高の高尾っ子まつりでした。



## 最後の高尾っ子祭り大成功

六年 岸本 大輝

十一月十七日 待ちに待った高尾っ子祭りがありました。僕は九月から高尾っ子祭りの準備をしていたので楽しみで楽しんで仕方ありませんでした。でも木山バンドに関しては一回しかする機会がないのもったいなく感じました。高尾っ子祭り前日にも高尾っ子祭りの準備の為に高尾小に行きました。椅子運びや、落語の照明の確認をしました。

高尾っ子祭り当日は早めに家を飛び出しました。学校につくと声だし。よく声が出なかったので系賀先生がこっそりのど飴をくれました。まわしをつけているときにはもうお客さんが来ていました。僕はあれあんまりお客さんがきていないなと思いました。みんなで入場の時に系賀先生が『武瑠道山』と言ったのはこりやあ一本取られたなと思いました。武瑠道山との対決は圧勝でした。武瑠道山の体が心配でした。そのあとと真央姫対将之山の戦いは真央ちゃん怖しと思いました。結生桜と大蛇山対千鳥足では圧勝でした。最後に高尾三人衆対イチコ口山はぐるぐる土俵を回って勝ちました。僕は頑張って頑張って倒しました。そのあとは落語でした。何と大喜利の時に木山さんが来られてうれしかったです。けど結生や真央ちゃんも落語も見てもらいたかったです。僕は絶対調でした。今日は飛ばさずにつつ丁寧に言えました。

そのあとにはお店みんなが来てくれました。僕が見た中で最高正解数は十三問中九問(小林先生)でした。木山さんは七問でした。僕はみんなが一生懸命うんと考えているところを見たらうれしい気持ちになりました。でも声がかれそうになりました。みんなに楽しんでもらえてよかったです。景品はみんな高尾クイズをしているかのようにうんと考えて選んでいました。

木山バンドを演奏する前はたのしみで震えました。homeを演奏するとドンドン前に体が動きまわりました。homeの最後はベースのことを忘れてボーカルに没頭しました。星影のエルも歌い切れてよかったです。そのあと豚汁はとってもおいしかったです。

木山さんのコンサートが始まりました。僕は手紙という歌が好きになりました。やっぱり生に限ると思いましたが。僕は感動しました。今度本当にカラオケに行きたいです。その後閉会式では涙が出ました。いい最後の高尾っ子祭りになりました。



※県内へき地学校の文集「へき地灯台」に掲載される作文です。高尾小学校のすてきなところを三人がそれぞれ綴りました。

※高尾っ子まつりの感想です。先月号で紙面の都合上掲載できなかったのですが、今月号に掲載します。